

平成 28 年 6 月 30 日
新旧データ接続検討WG

遡及改訂対応が生じる要因の整理と検討対象の明確化について

1. 各種統計調査において、過去に遡及して改訂が行なわれる主な場合は以下のとおり。

- 1) 集計過程における過誤
- 2) 遅れて提出された調査票の追加
- 3) 基準改定・ウエイト更新・計算方法の変更
- 4) 母集団情報の変更に伴う更新
(比推定における比や母集団の大きさ等の更新)
- 5) 標本交替による新旧断層への対応

2. このうち、検討課題「サンプル替えに伴い遡及改訂する際の過去サンプルとの整合性確保のあり方」に対応して、本WGで取り上げるものは、

「5) 標本交替による新旧断層への対応」

としてはどうか。

3. また、標本交替が行なわれた際、同時に行なわれる

「4) 母集団情報の変更に伴う更新」

についても、本WGで対応の考え方を併せて示すこととしてはどうか。